

野菜の需給・価格動向レポート(平成31年1月28日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

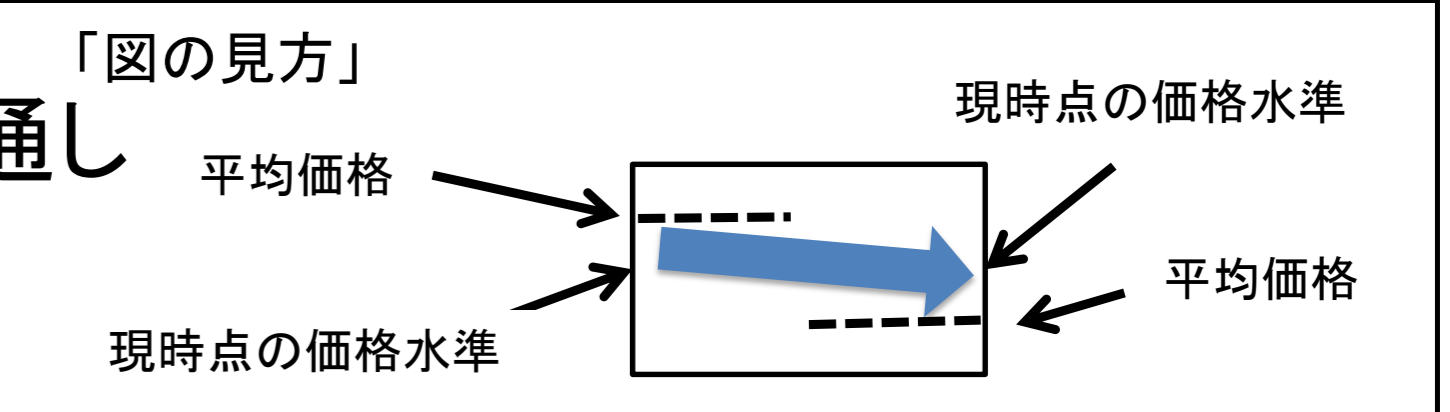
種類	12月の価格情報		1月の価格情報			1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格						
				下旬	上旬					中旬
葉茎菜類	キャベツ	72.93	77	96.86	82	91	・7.011t (84%)	愛知(64)、千葉(15)		愛知産及び千葉産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回る出荷となっているものの、最近の冷え込みや少雨の影響により生育は緩慢になっていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		(106%)	(85%)	(94%)	76.91	70	92.10			
	たまねぎ	81.54	111	82.13	119	126	・5.407t (79%)	北海道(81)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている中で、傷みが発生したことにより商品化率が低下したことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(136%)	(145%)	(153%)	81.54	111	82.13			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.04	283	265.64	304	249	・2.353t (99%)	千葉(44)、埼玉(24)		千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であることに加え、病害の発生もなく正品率が高いことから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。埼玉産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 1月に入り出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均を下回る価格は、埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		(112%)	(114%)	(94%)	467.01	368	473.04			
	はくさい	42.34	37	64.18	39	37	・6.031t (108%)	茨城(64)、兵庫(18)		茨城産及び兵庫産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		(87%)	(61%)	(58%)	55.95	54	68.70			
	ほうれんそう	423.62	497	372.27	567	527	・745t (81%)	茨城(30)、群馬(28)、埼玉(18)		茨城産及び群馬産は、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。埼玉産は、12月までの前進出荷により残量が少ないことに加え、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。
		(117%)	(152%)	(142%)	507.91	410	394.15			
	レタス(結球)	235.87	192	245.96	220	228	・2.495t (95%)	静岡(44)、長崎(9)、千葉(9)		静岡県及び千葉産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、大玉傾向となっていることから、現在の出荷は平年を上回る出荷となっているものの、最近の冷え込みや少雨の影響により生育は緩慢になっていることから、今後は平年並みの出荷の見込み。長崎産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 12月中旬から出荷量が減少し徐々に値を上げている中、静岡県、千葉産及び長崎産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回る価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
		(81%)	(89%)	(93%)	233.81	180	244.82			
果菜類	きゅうり	415.23	718	379.15	470	405	・2.071t (94%)	宮崎(32)、千葉(19)、群馬(15)		宮崎産、千葉産及び群馬産は、12月上旬中に曇天が続いた影響により樹勢が低下していたものの、その後好天が続いて生育は回復したことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 12月下旬から出荷量が増加し徐々に値を下げて現在平均並みの価格は、宮崎産、千葉産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、引き続き平均並みで推移する見込み。
		(173%)	(124%)	(107%)	392.83	697	358.27			
	トマト(大玉)	397.80	332	383.22	256	271	・2.712t (99%)	熊本(35)、栃木(22)、愛知(12)		熊本産は、1月上旬まで前進出荷が続いた影響で成り疲れとなっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産及び愛知産は、天候に恵まれて着果状況も良く肥大も進んでいることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 熊本産の出荷が平年並みと見込まれるものの、栃木産及び愛知産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		(83%)	(67%)	(71%)	357.31	307	348.99			
	なす	440.08	409	417.24	366	392	・616t (98%)	高知(83)		高知産は、順調な生育であることから、現在の出荷は平年並みであるものの、12月上旬中に曇天が続いた影響で花落ちしていることから、今後は平年を下回る出荷の見込み。 高知産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均並みの価格は、今後は平均を上回って推移する見込み。
		(93%)	(88%)	(94%)	406.14	389	390.96			
	ピーマン	378.83	475	578.80	576	669	・551t (106%)	宮崎(45)、高知(21)		宮崎産及び高知産は、12月上旬中の曇天が続いた影響で花落ちしたことに加え、樹勢が低下していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 12月中旬から出荷量が減少して徐々に値を上げ現在平均を上回る価格は、宮崎産及び高知産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(125%)	(100%)	(116%)	371.29	471	565.30			
	だいこん	67.55	53	79.03	64	60	・4.846t (88%)	神奈川(63)、千葉(30)		神奈川産及び千葉産は、天候に恵まれて生育が前進していることに加え、太物傾向となっていることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 神奈川産及び千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		(78%)	(81%)	(76%)	76.48	52	80.47			
	にんじん	105.86	111	111.16	104	103	・4.394t (102%)	千葉(75)		千葉産は、天候に恵まれて順調な生育であり太物傾向であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年を上回ると見込まれることから、現在平均を下回る価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		(105%)	(94%)	(93%)	104.49	116	109.97			
		(111%)	(87%)	(85%)						

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成23～28年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生産状況及び価格見通し」における平均価格(平成26～30年)とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成30年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している(下記URLを参照)。
URL : https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況

※・レポートの読み方については、注意書きを参照してください

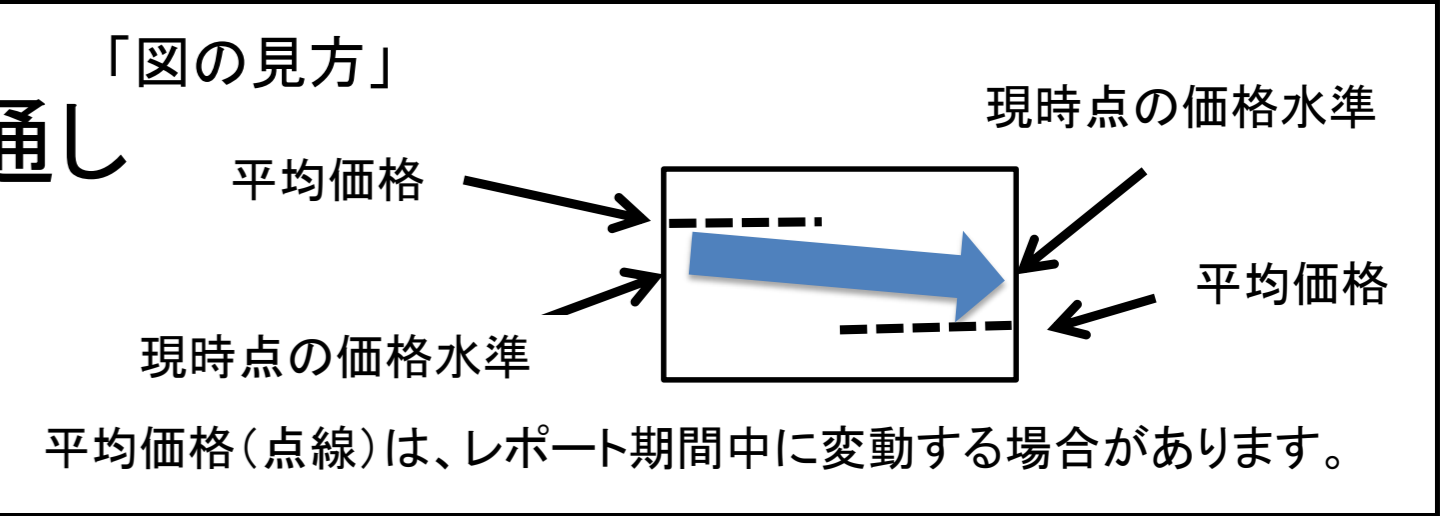
種類	12月の価格情報		1月の価格情報		1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						
いも類	さといも	232.02	337	240.29	309	281	・287t (104%)	埼玉 (34)、千葉 (32)	↑	埼玉産及び千葉産は、夏場の高温・少雨や9月の曇雨天の影響から小玉傾向であることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		(145%)		(129%)	(117%)					
	ばれいしょ	228.44	403	219.65	344	298	・109t (106%)	愛媛 (64)、中国 (17)	↑	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。昨年6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、後続産地である九州産の流通量が増加していることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		(176%)		(157%)	(136%)					
	ばれいしょ	92.33	113	103.85	112	110	・4,123t (105%)	北海道 (74)	↑	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。昨年6月下旬以降の長雨・日照不足や7月中旬以降の高温・少雨の影響により一部が小玉傾向となっていることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年を下回ると見込まれるものの、後続産地である九州産の流通量が増加していることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		(122%)		(108%)	(106%)					
		92.33	103	103.85	110	107	・1,281t (87%)	鹿児島 (52)、北海道 (30)	↑	
		(112%)		(106%)	(103%)					



注：1 平均価格は、過去6カ年（平成23～28年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）であり、保証基準額の算定の基となる価格であることから、農林水産省で公表している「野菜の生育状況及び価格見通し」における平年価格（平成26～30年）とは異なる。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	12月の価格情報		1月の価格情報		1月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	2月の主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し				
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格							
野菜類	ブロッコリー	286.55	386	300.88	389	458	・716t (108%)	愛知 (34)、香川 (22)、熊本 (9)	↑	愛知産、香川産及び熊本産は、最近の冷え込みや少雨の影響により生育が停滞していることから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。 愛知産、香川産及び群馬産の出荷が平年を下回ると見込まれることから、現在平均を上回る価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
		(135%)		(129%)	(152%)						
		ブロッコリー	357.11	311	318.91	335	399	・214t (115%)	徳島 (36)、長崎 (17)、和歌山 (8)	↑	
			(87%)		(105%)	(125%)					



注：1 平均価格は、過去5カ年（平成23～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成30年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 関東・近畿ブロック以外の平均販売価格は、機構HPに掲載している（下記URLを参照）。
URL：https://www.alic.go.jp/y-kofu/yagyomu02_000019.html

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 斎藤、山田、長島 TEL03-3583-9793、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。